

企業のスタッフ部門は今後より戦略的な役割を強める。働き方改革により労働時間を削減するには、まず生産性向上が欠かせない。求められるのはIT（情報技術）の積極活用による効率化と価値創造だ。紙の書類を取り込むスキャナーや人工知能（AI）応用の光学式文字読み取り装置（OCR）、それにRPA（ロボットによる自動化）を活用することで、書類削減や業務の効率化、さらには人にはできない業務の創造も可能となる。新たなコミュニケーションツールも有効だ。

経理・総務・人事部門の働き方改革
～バックオフィスのデジタル化による業務効率化～

ITと業務改革で効率アップ

基調講演

コンパクト化する間接部門。いま求められる役割とは？

BPO、RPA、AI時代を生き残るには、月刊総務取締役（月刊総務）編集長、一般社団法人ファシリティー・オフィ、サービス・コンサルティング・アドバイザー、豊田 健一氏



テクノロジの導入業務見直しと同時に

作れるまじゅうの数を増やすか、世の中の変化に合わせて売れるまじゅうを新たに作り出すか。前者は既存業務の効率化。後者はイノベーション、新結合による価値の創出。そのためには多様性、いろいろな人が行き交う場を作る取り組みが欠かせない。

戦略スタッフの役割は会社を変えてきた。働き方改革で生産性が上がり、労働時間が減る。そのため業務の改善、改革が欠かせない。一つのヒントはテレワークの導入だ。業務改善のきっかけとなる。人を活用するのではなく、AIを活用する。新しい仕事を創造する使い方も可能だ。企業の戦略スタッフは規模が小さくなり、一方で社内外の多くの情報が集まる結節点になる。会社を変える存在として重要な役割を担う高まるだろう。

セッション4

日立ソリューションズの働き方改革事例を一挙公開！

AIを活用したデータ入力で間接部門の業務を効率化



全社で働き方改革データ入力を自動化

当社は全社を挙げて働き方改革に取り組んでいる。総労働時間については年間2000時間から1000時間減らす目標を立てた。月2回のプレミアムフライデーは年休取得推奨日とし、休日のメール禁止や会議室の有償化などの施策を実施した。その結果、2011年から17年にかけて月80時間の残業発生率を78%も削減できた。RPAによる提携業務の自動化、効率化を進める。月23000時間、15人分の業務効率化を達成した。

セッション1

実務担当者は語る！経理・購買部門の紙文書業務自動化による実践事例

東京会場 経営管理部 PFCU 経営統括部ソリューション購買部長 木島 由梨氏 大阪会場 経営管理部 PFCU 業務統括部ソリューション購買部長 浜崎 哲也氏 PFCU 業務統括部ソリューション購買部 南千絵氏 経営管理部 笈田 幹則氏



木島氏



浜崎氏

紙削減で効率向上 RPAで自動化進む

当社はスタッフ部門オフィスへのペーパーレス化に取り組む。紙文書の92%を削減した。書類をRPAで自動化できた。年間3もデスクの引き出しも消えた。書類管理部門は帳簿を480箱から8箱に減らした。単純作業を手放して保存していたが、電子帳簿保存法施行後は50箱に減り、現在紙の現場のストレスが減った。

セッション5

Future of Work 生産性向上のための効率化・高次化とタレントマネジメント

デロイトトーマツ コンサルティング シニアマネジャー 坂田 省悟氏



RPAで浮いた時間組織の変革に活用

働き方改革を実施中の企業は2015年の34%から17年には73%と急増した。RPA、AI、クラウドソーシングの導入も増えている。本社機能改革の代表的な課題は①過剰・過小なサービス②意味役割分担③メンバーの役割再定義④改善を移行できない御用聞きに陥る⑤自部門メンバーの改革意識が高まらない⑥6つの本部門の生産性向上では、機械の高次化、業務の効率化、行動の姿容（どうぶつ）の観点になる。

セッション2

経理・総務・人事部門が導く企業の生産性革命

無駄や非効率な仕事を見直し、働きがいのある会社へ チームスピリット 取締役 宮原 一成氏



宮原氏

タスク時間を可視化 業務改善につなげる

TeamSiteは働き方改革を支援するクラウドサービスだ。Salesforceのアプリマーケットで提供する。勤怠、就業、工数を集計、可視化できる。このデータは内部統制や生産性の向上に役立つ。例えば社内会議の時間を可視化し、会議を減らして顧客訪問に充てるなどの変革に利用された。我が国の労働人口は右肩下がりで減少し、働き方改革で労働時間も減る。そこで求められるのは生産性の改善だ。間接業務とが、結果的に効果的なアクションを打てる。

セッション6

世界の先進事例にみるエンタープライズRPAの運用

安心・安全・拡張と持続可能な業務効率化 Blue Prism ソリューションコンサルティング部長 志村 裕司氏



RPA、AIに強み 業務効率向上に実績

Blue Prismは世界に1000社以上の顧客を持つ。「RPA」という用語は当社の考案だ。ほとんどの企業情報システムに対応できる自信がある。自動化手法はレコーディング型デスクトップ自動化（RD）と、当社のようなデジタルワークフォースプラットフォーム（RPA）がある。当社のエンタープライズRPAは拡張性、耐障害性、コンプライアンス、セキュリティの要件を満たす。またロボット運用モデル減した。

セッション3

LINE WORKS導入の効果

何が会社に起こったか？ ワークスモバイルジャパン コンサルティング部・アーキテクト 廣瀬 信行氏 マネージャー



廣瀬氏

ビジネス版LINE 迅速に情報を共有

LINE WORKSはビジネス版のLINEだ。組織内コミュニケーション専用環境で動く。法人や官公庁での導入実績がある。組織の未端まで迅速に情報を共有でき、災害時の安否確認などの緊急対応にも役立つ。管理者が許可すれば通常のLINEユーザーとつながる。LINEユーザーとつながることで、例えば人材の採用に使うことも可能だ。利用事例は数多い。幕張メッセでコンサート中に50人以上が熱中症で倒れた事件では、現場業務効率化に役立てた。

クロージング講演

RPAで実現する働き方改革

第一生命保険 事務企画部長 拜田 恭一氏



RPAで業務自動化現場のストレス減

RPAに取り組んで2年。内勤の社員約1万1000人を対象に、人間とデジタルをうまく組み合わせる事務オペレーションの自動化を進めている。現在までに200業務をRPAで自動化した。削減した業務量は5.1万時間、人員換算で約300人分になる。今後3～4年で3000業務をRPAで自動化する計画だ。2016年10月からの取り組みを始め、18年4月から全社で展開している。RPAを導入している。

企画・制作 = 日本経済新聞社 クロスメディア営業局

協賛 PFU、チームスピリット、ワークスモバイルジャパン、日立ソリューションズ、デロイト トーマツ コンサルティング、Blue Prism